

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立すながわ高等支援学校・大阪府立泉南支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	1 アンケートにおける肯定的割合の向上 2 「主体的・対話的で深い学び」を実践する教員の育成と増加 3 アクティブ・ラーニンググループの使用率向上 4 併設校同士の交流授業、共生推進教室設置校との遠隔合同授業を実施し、交流・連携を強化 5 地域連携と外部への情報の発信
計画名	『Let's Be Active!!』 ～学校を超えてつながる夢のプロジェクト～

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	【大阪府立すながわ高等支援学校】 1 高等支援学校教員としての専門性の確立 (2) 短焦点プロジェクターや ICT 機器の積極的な活用による授業力の向上 3 地域との連携・協同による、知的障がい生徒の就労支援の拠点校としての力の発揮 (2) 就労支援に関する支援教育のセンター的機能の発揮 (4) 学校、福祉、企業等とのさらなるつながりの連携強化	【大阪府立泉南支援学校】 2 すべての教職員が児童・生徒の発達を保証するために一人ひとりの合理的配慮を明確し、知的障がい児教育に対する自らの「専門性」を維持・向上させる学校。(専門性の高い学校づくり) (1) ②教材・教具、ICT など教育環境をすながわ高等支援学校と連携し充実をめざす。 (3) 新学習指導要領に準拠した (ICT 教育、プログラミング教育、SST、国際理解教育等) 新しい時代に対応した取組みを通して授業改善を図る。 (5) 泉南地域全体の支援教育力の向上のため、②地域への研修や教材研究の公開をととして教員の相談支援力の向上を図る。
事業目標	<p>新学習指導要領に謳われている、主体的・対話的で深い学びを実践し、児童生徒の主体的に学習に取り組む態度と思考力・判断力・表現力を養うため、すながわ高等支援学校と泉南支援学校の共用教室である音楽室をアクティブ・ラーニングルームとして整備し、以下の取組みを行う。</p> <p>「合同」</p> <p>い 本計画をすながわ高等支援学校と泉南支援学校との合同提案とし、アクティブ・ラーニングルームを両校が使用可能なスペースとする。この教室を拠点として、音楽科のみならず、両校の様々な教科でアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を実践し、共有することで、支援教育における実践例を積み重ね、教員の指導力・授業力の向上をめざす。</p> <p>い すながわ高等支援学校と泉南支援学校との交流授業、すながわ高等支援学校本校と共生推進教室設置校 (久米田高等学校、信太高等学校) との遠隔合同授業を通して、ともに学び、ともに育つ教育を実践する。</p> <p>「活用」</p>	

		<ul style="list-style-type: none"> い すながわ高等支援学校においては、アクティブ・ラーニンググループでグループワーク、プレゼンテーションなど生徒が自ら発信する授業を多く実施し、表現力を高め、社会的自立につなげる。 い 泉南支援学校においては、小学部・中学部・高等部それぞれがアクティブ・ラーニンググループで授業を行い、様々な障がいの程度、幅広い年齢の児童生徒が活用できる場とする。 い 現在音楽室の使用率は両校で30%程度である。整備後、上記の取組みを通して両校で使用率100%増をめざす。 <p>「発信」</p> <ul style="list-style-type: none"> い 共に地域のセンター校として、両校で積み重ねたアクティブ・ラーニングの実践をホームページ、研究授業を通じ、外部に積極的に発信していく。
取組みの概要	整備する設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">い 壁面改修工事、ホワイトボード <li style="width: 50%;">い 短焦点プロジェクター <li style="width: 50%;">い 床面張替修理、カーペット <li style="width: 50%;">い 高輝度プロジェクター <li style="width: 50%;">い 学習用フラップデスク <li style="width: 50%;">い プロジェクター台 <li style="width: 50%;">い スタッキングチェア <li style="width: 50%;">い HDMI 分配器 <li style="width: 50%;">い 平行スタックテーブル <li style="width: 50%;">い コーナー スポンジ <li style="width: 50%;">い 遮光カーテン
	前年度	<ul style="list-style-type: none"> い ルック LOOK プロジェクトの継続実施 い 府立支援学校 ICT 研究協議会の会場校としてアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた音楽科・英語科・道徳の公開研究授業を実施 い テレビ会議システムを活用した共生推進教室設置校との道徳の遠隔合同授業を試験実施 い アクティブ・ラーニング勉強会の実施 い アンケートによる実態調査 い 課題の洗い出し い ICT 機器活用研修の実施 い 併設校および共生推進教室設置校との調整 い プロジェクトチームおよび、サポートチームを組織
	初年度	<ul style="list-style-type: none"> い アクティブ・ラーニンググループの機能を生かした指導計画を策定（4月～9月） い 併設校同士、相互の授業見学会、研究協議を実施（10月） い 授業アンケートの実施（10月） い 生徒の理解度、学習参加度の確認とデータ分析（11月） い アクティブ・ラーニンググループを活用した共生推進教室との遠隔合同授業を実施（12月） い アクティブ・ラーニンググループ活用度経過調査の実施（3月） い 次年度に向けた活用方法の決定（3月） い 併設校同士の交流授業を実施（通年） い 実践報告会、研究授業の実施（通年） い アクティブ・ラーニング勉強会の実施（通年） い ホームページにて実践事例の発信（通年）
	2年め	<ul style="list-style-type: none"> い アクティブ・ラーニンググループを活用した授業の実践報告を含む教員研修の実施（4月・5月） い アクティブ・ラーニンググループを活用した共生推進教室設置校との遠隔合同授業を実施（6月・11月） い 講師を招聘したアクティブ・ラーニング研修会の実施（8月） い 併設校同士、相互の授業見学会、研究協議を実施（10月） い 授業アンケートの実施（10月） い 生徒の理解度、学習参加度の確認とデータ分析（11月） い アクティブ・ラーニンググループ活用度経過調査の実施（3月） い 次年度に向けた活用方法の決定（3月）

		<ul style="list-style-type: none"> い 併設校同士の交流授業を実施（通年） い ホームページにて実践事例の発信（通年） い アクティブ・ラーニング勉強会の実施（通年） い 実践報告会、研究授業の実施（通年） い 各地のアクティブ・ラーニング実践の先進事例視察および研究（随時）
	3 年 め	<ul style="list-style-type: none"> い アクティブ・ラーニンググループを活用した授業の実践報告を含む教員研修の実施（4月・5月） い アクティブ・ラーニンググループを活用した共生推進教室設置校との遠隔合同授業を実施（6月・9月・11月） い 併設校同士、相互の授業見学会、研究協議を実施（10月） い 授業アンケートの実施（10月） い 生徒の理解度、学習参加度の確認とデータ分析（11月） い 併設校同士の交流授業を実施（通年） い ホームページにて実践事例の発信（通年） い アクティブ・ラーニング勉強会の実施（通年） い 関係機関を招聘しての実践報告会、研究授業の実施（通年） い 各地のアクティブ・ラーニング実践の先進事例視察および研究（随時）
	取組みの 主担・実 施者	<p>主担者： 将来構想会議（首席…取りまとめを担当） すながわ泉南合同プロジェクトチーム…教室活用に関する提案・共有・実践を担当 ICT委員会…ICT機器使用のサポートを担当</p> <p>実施者： 全教員</p>
成果の検証方法 と評価指標	初 年 度	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒へアクティブ・ラーニンググループ使用後のアンケート（4段階評価）を行い、肯定的評価を70%以上にする。 2 「主体的・対話的で深い学び」を実践する教員の割合を80%以上にする。 3 音楽の授業を含む他の教科等のアクティブ・ラーニンググループの年間使用回数をR1年度比20%増にする。 4 <ul style="list-style-type: none"> ・ 併設校同士、相互の授業見学会および研究協議を1回以上実施する。 ・ 併設校同士の交流授業を1回以上実施する。 ・ アクティブ・ラーニンググループを活用した共生推進教室設置校との遠隔合同授業を1回以上行う。 5 <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT機器を活用したアクティブ・ラーニングの実践事例をホームページにて1例以上公開する。 ・ アクティブ・ラーニンググループを活用した実践報告会と研究授業を2回以上行う。
	2 年 め	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒へアクティブ・ラーニンググループ使用後のアンケート（4段階評価）を行い、肯定的評価を75%以上にする。 2 「主体的・対話的で深い学び」を実践する教員の割合を90%以上にする。 3 音楽の授業を含む他の教科等のアクティブ・ラーニンググループの年間使用回数をR1年度比50%増にする。 4 <ul style="list-style-type: none"> ・ 併設校同士、相互の授業見学会および研究協議を2回以上実施する。 ・ 併設校同士の交流授業を1回以上実施する。 ・ アクティブ・ラーニンググループを活用した共生推進教室設置校との遠隔合同授業を2回以上行う。 5 <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT機器を活用したアクティブ・ラーニングの実践事例をホームページにて3例以上公開する。 ・ アクティブ・ラーニンググループを活用した実践報告会と研究授業を4回以上行う。

	<p style="text-align: center;">3 年 め</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童生徒へアクティブ・ラーニンググループ使用後のアンケート（4段階評価）を行い、肯定的評価を80%以上にする。 2 「主体的・対話的で深い学び」を実践する教員の割合を100%にする。 公開授業週間の参加者数を50名以上にする。 3 音楽の授業を含む他の教科等のアクティブ・ラーニンググループの年間使用回数をR1年度比100%増にする。 4 <ul style="list-style-type: none"> ・ 併設校同士、相互の授業見学会および研究協議を3回以上実施する。 ・ 併設校同士の交流授業を1回以上実施する。 ・ アクティブ・ラーニンググループを活用した共生推進教室設置校との遠隔合同授業を3回以上行う。 5 <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT機器を活用したアクティブ・ラーニングの実践事例をホームページにて5例以上公開する。 ・ アクティブ・ラーニンググループを活用した実践報告会と研究授業を6回以上行う。 ・ 関係機関を招聘しての研究授業および実践報告会への参加団体30団体以上にする。
--	---	---